

募集

～教育の質的転換を目指すICT利用～

平成29年度 ICT利用による教育改善研究発表会 開催要項

この発表会は、全国の国公立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT利用によるFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的として、平成5年より実施しています。最も優れた発表に対しては文部科学大臣賞を、またこれに次いで優れた発表に対しては協会賞を授与し、その教育業績を顕彰します。

大学・短期大学では、アクティブ・ラーニングによる教育方法の改善、学修成果の測定と可視化など、個々の教員はもとより組織としてのFDへの取り組みが課題となっています。

この発表会は、今後の教育活動に示唆を与えるものですので、大学教職員の皆様におかれましては発表会の重要性をお考えいただき、ぜひご参加ください。

日 時：平成29年8月9日（水）10：00～16：50

場 所：東京理科大学 森戸記念館 （地図は別ページ参照）詳細は、当日会場にてご確認ください。

東京都新宿区神楽坂 4-2-2

JR「飯田橋」西口／東京メトロ「飯田橋」B3 出口下車 徒歩6分、都営大江戸線「牛込神楽坂」A3 出口下車 徒歩3分

主 催：公益社団法人 私立大学情報教育協会

後 援：文部科学省

【本発表会のねらい】

教員個人や大学・学部等組織レベルでのICTを利用した教育改善の取り組みと効果を公表することで、アクティブ・ラーニングによる教育方法の改善、学修成果の測定と可視化など、教育の質的転換に向けた課題の解決策を示唆することを目指しております。

参加対象 国公立大学・短期大学の教職員、賛助会員

参 加 費 加盟大学・短期大学、賛助会員：8,500円（税込）

非加盟大学・短期大学：17,000円（税込）

*発表者の参加費は不要です。発表要項をご覧ください。<http://www.juce.jp/LINK/houhou/16houhou/16junbi.htm>

*当協会加盟校は右サイトで確認ください。<http://www.juce.jp/LINK/kaiin/univ4.htm>

加盟校の参加者には、当日の発表スライド（許可が得られたもの）を後日閲覧できるようにします。

申込方法 Webからの申込み

下記Webの「参加申込み」ボタンを押し、画面表示に従って入力、送信下さい。

<http://www.juce.jp/LINK/houhou/17houhou/>

FAXでの申込み

別紙の申込用紙に記入の上、送付下さい。 **FAX: 03-3261-5473**

※申込内容で当協会が取得する個人情報は、下記の目的により利用します。

「大学名、氏名、所属（学部、部署）」は、当日配布する資料（冊子）に参加者名簿として掲載します。「電子メールアドレス」は、今後の事業案内の連絡先情報として利用します。

申込締切 8月4日（金）

参加費振込 できるだけ8月4日（金）まで振込み下さい。

一括申込みの場合：振込依頼人名には、大学名の他にキャンパス名または部署名を入れて下さい。

個人申込みの場合：参加費の振り込み依頼人名には、大学名と氏名の両方を必ず入れて下さい。

シジョウキョウ

振込先 りそな銀行市ヶ谷支店 普通預金 0054409 名義人 私情協

〒102-0073 千代田区九段北 4-1-14 九段北 TLビル4F TEL:03-3261-2798

*振込手数料は申込者各自で負担願います。

*8月4日（金）までのキャンセルは、参加費から振込手数料を差し引いた金額を返金します。それ以降のキャンセルは、資料代（送料含む）、振込手数料を請求させていただきます。後日資料を郵送いたします。予めご了承下さい。

送付・問い合わせ先 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局 E-mail:info@juce.jp（問い合わせ用）

〒102-0073 千代田区九段北 4-1-14 九段北 TLビル4F TEL:03-3261-2798/FAX:03-3261-5473

平成29年度ICT利用による教育改善研究発表会 発表一覧(45件)

*発表は3会場に分かれて行います。

*各会場は当日の案内表示等にて確認ください。

*研究発表者名は発表代表者名を掲載しています。

(敬称略)

	時間	発表番号	発表題目	研究発表者	大学名
A 社会科学・幼児教育・人文科学・地域	10:00	A-1	環境制約対応型社会・産業形成を題材とした、創造性・主体性を育成する総合教育	大塚 潤一郎	実践女子大学
	10:20	A-2	PBL型学習の有効性立証と実施手法	成瀬 猛	麗澤大学
	10:40	A-3	顔検出技術を活用した授業撮影による受講者の学習意欲・興味の可視化に関する研究	奈良 堂史	関東学院大学
	11:00		休 憩		
	11:10	A-4	地域社会との連携参加体験型授業を通じたアクティブラーニング	佐々木 利廣	京都産業大学
	11:30	A-5	ICTを活用した学習による地域活性化の可能性:高校地歴科教科教育との連携を視座に	天野 太郎	同志社女子大学
	11:50	A-6	解答やレポート作成過程の時間分析の研究	伊藤 春樹	愛知淑徳大学
	12:10		休 憩		
	13:10	A-7	SNSとアカデミック・コーチングを活用した多方向型能動的講義	菅原 秀幸	北海学園大学
	13:30	A-8	勘定科目コード付与による簿記学習支援ソフトの開発ー「ペンと算盤」の新展開ー	藤浪 英也	白鷗大学
	13:50	A-9	大人数授業時の学生自発型LIVE授業の試行と分析	小林 正樹	愛知文教大学
	14:10		休 憩		
	14:20	A-10	基礎的な授業技術習得のための示範授業ビデオの制作	坂本 徳弥	相山女子学園大学
	14:40	A-11	情報通信技術(ICT)の積極的利用と改善 ~理科の実験授業への最適化~	稲垣 善茂	神戸女子大学
	15:00	A-12	ピアノ演奏見える化ツールを活用した学生の振り返り記述と教員の指導内容の質的分析	田中 功一	立教女学院短期大学
	15:20		休 憩		
B 医学・農学・工学・理学・生活・その他	15:30	A-13	ICTを活用した大人数講義科目の双方向型TBL化	柳沢 秀郎	名城大学
	15:50	A-14	発表中止		
	16:10	A-15	ICTを活用した哲学教育を通じた学修リテラシーの向上	加藤 素明	大阪観光大学
	16:30	A-16	アクティブラーニングの一事例ー地域文化政策の提言と実践	小菅 信子	山梨学院大学
	10:00	B-1	成人看護学のActive Learning型授業から臨地実習の評価	今井 栄子	城西国際大学
	10:20	B-2	医学教育におけるLMSを用いた予習復習テストの全講義への導入と試験成績の推移	山本 貴嗣	帝京大学
	10:40	B-3	学修成果を可視化した成績開示と学修ポートフォリオを作成するマクロプログラムの開発	杉山 明子	朝日大学
	11:00		休 憩		
	11:10	B-4	ICT活用による学問分野連携型協働学修の実践と教育改善効果の検証	二瓶 裕之	北海道医療大学
	11:30	B-5	ショートムービーの制作を通して分析機器の原理・理論をわかりやすく表現する試み	清水 秀信	神奈川工科大学
	11:50	B-6	ICTを利用した実験技能習得困難者の早期発見と教育効果向上システム構築の試み	岩淵 範之	日本大学
	12:10		休 憩		
	13:10	B-7	特別支援教育支援アプリケーションの開発をテーマとしたPBL教育の取り組み	山地 秀美	日本工業大学
	13:30	B-8	組み立て型概念マップによる双方向型授業のタスク化とその効果	山元 翔	近畿大学
	13:50	B-9	建築専門科目の反転授業におけるアクティブラーニングの教育効果	柳沢 学	摂南大学
	14:10		休 憩		
C 情報基礎・情報専門・語学・芸術・初年次・環境	14:20	B-10	多様化する学生の学力やスキルに応じたWEBページ教材の設計と実装	香川 治美	九州産業大学
	14:40	B-11	自主的学修時間の確保に向けた数学基礎教育 e-Learning の取り組み	亀田 真澄	山陽小野田市立山口東京理科大学
	15:00	B-12	学びの可視化と多様なアクティブラーニングを支援するe-シラバスの構築	山本 知仁	金沢工業大学
	15:20		休 憩		
	15:30	B-13	学内ネットワークを活用した数理系科目の授業支援のための計算力向上講座の実施	西 誠	金沢工業大学
	15:50	B-14	ICTによるアクティブ・ラーニング導入前後の学習成果分析	石松 秀	西九州大学
	16:10	B-15	サービス接遇教育における相互評価とWebカメラを用いた客観的自己評価の効果	藤原 由美	産業能率大学
	16:30	B-16	発表中止		
	10:00	C-1	ICT基礎への関心を呼び覚ますための授業方法の改善	西岡 健自	戸板女子短期大学
	10:20	C-2	eラーニングを活用した授業システムの構築と運用	宮下 健輔	京都女子大学
	10:40	C-3	LMSを活用した主体的な学修を促進する授業の提案と実践	登川 幸生	日本大学
	11:00		休 憩		
	11:10	C-4	こと割り教育におけるサイバーフィジカルな教材の活用とその効果の検討	中村 太蔵留	東京工科大学
	11:30	C-5	工業大学での初年次プログラミング科目におけるTA/SAの教育力向上の取り組み	大橋 裕太郎	日本工業大学
	11:50	C-6	地域貢献をテーマとした文理協働PBLの試み	松田 洋	日本工業大学
	12:10		休 憩		
	13:10	C-7	TEDを素材としたアクティブ・ラーニングでGlobal Issuesを学ばせる	前田 幸男	創価大学
	13:30	C-8	留学前英語力強化のためのICTを使った協調・協働学習の実践	飯田 毅	同志社女子大学
	13:50	C-9	ICT機器を利用して毎回定めた目標を達成するためのグループ学習を行う授業	山之上 卓	福山大学
	14:10		休 憩		
	14:20	C-10	学習者相互評価モバイルアプリによるカルーセル・プレゼンテーションの促進	ロブ トーマス	京都産業大学
		C-11	ICTを活用した教科横断型・課題解決型授業の実践ー専門英語講読×プログラミングー	丸野 由希	京都女子大学
	15:00	C-12	3Dプリンタを用いて歴史的建造物を印刷する3D-CAD教育の実践	齊藤 光俊	新潟経営大学
	15:20		休 憩		
	15:30	C-13	クリッカーを利用したアクティブラーニングの教育効果	池島(片岡) 宏子	早稲田大学
	15:50	C-14	LMS上の自動採点システム構築による自由記述文評価の取り組み事例	山本 恵	名古屋外国語大学
	16:10	C-15	eポートフォリオなど活用した文献評価に関する考察	貝増 匡俊	神戸女子大学